

## 編集後記

■例年にない猛暑に見舞われましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？加えて、豪雨、台風、さらには地震と多くの自然災害に見舞われた夏となりました。被災された方々には、お見舞い申し上げます。そして、1日も早い復興をお祈りします。

■重吉編集委員長の就任と同時に、編集委員になりました近畿大学の吉川です。編集委員長の手となり、足となり、編集作業に携わらせていただいております。色々和不慣れな点が多く、学会事務局など、みなさまにご迷惑をおかけしながら、何とかこれで4冊目。重吉・池上・吉川の3人体制の編集作業も軌道に乗ってきました。過去に編集作業をされてきた先生方のご苦勞が如何ほどであったか思い知り、感謝の思いを新たにしております。

■本号は、学術大会予稿集を兼ねております。この冊子が、みなさまお手元に届く頃には、大会に参加される方は、長崎行き準備が進んでいることと思います。旅のお供に、道中でお楽しみいただけるように、力作を取り揃えました。八木田先生の巻頭言、合言葉は「Multi-scope」です。秋山先生の総説では、生物物理学や構造生物学という観点から、時を刻むタンパク質の構造や運動について、非常に分かりやすく解説して頂きました。

■研究室便りの山仲先生は、新たな研究室を立ち上げられた経緯を書いてくださいました。苦勞しながらも、着々と前進する姿は、頼もしい限りです。遠藤先生らのバトンを受け継いだ榎木先生のリレーエッセイもまた、最近、新天地での研究をスタートされた様子です。北大の本間研一・さと先生のもとから旅立ったお二方ですが、私も同じ研究室に、同時期に在籍したことから、よく知った間柄。何だか嬉しく読ませていただきました。

■佐藤先生の留学体験記は、これから留学を考える方々の参考になりそうです。一時に比べると、留学する研究者の数が

減っているとされる昨今、海外でたくましく研究を続ける方の姿は、若手だけでなく、みんなにとっていい刺激になります。個人的には、留学体験者として J1 とか HIB というビザの名前さえ懐かしく、切り替えの時にゴタゴタして大変だったなあと思い出しました。ちょっと年寄りっぽくて嫌ですが…。

■春から夏にかけて SRBR、睡眠学会、札幌シンポジウムなど、関連学会が相次いで開催されました。それぞれに参加された若手の方々に、参加記を寄稿して頂きました。学会の熱気、そして、それぞれに学会を満喫された様子がよく伝わってきます。

■最後に、少し自己紹介を。愛知県岡崎市で生まれ育ちました。みなさんご存知の自然科学研究機構がある場所です。地元の人には、「分子研」として認識されることが多い研究所ですが（分子研が最初に建てられたため）、世界的に有名であることは、自分が研究をするようになるまで知りませんでした。私の研究歴は、奈良女子大学の石先生の下で卒業研究を始めたのを最初に、東大の深田先生、バージニア大の Menaker 先生、北大の本間研一・さと先生、そして現所属、近大の重吉先生のご指導とともに進んできました。時間生物学にどっぷりつかった研究人生をまい進中です。ちょうど、時間生物学会が設立された頃に研究を始めた世代で、時間生物学会の歴史と共に歩んできたという大げさですが、時間生物学会に育ててもらったと勝手に思っています。編集委員の任を果たすことで、少しは学会に恩返しできれば、幸いです。

■最後の最後にもう一つ。編集局では、みなさまからのご意見・ご感想を絶賛募集中です。こんな総説が読みたい、あの記事が面白かった等々、編集局宛にお知らせください。お待ちしております。

(吉川)

時間生物学 Vol.24, No. 2 (2018)

平成 30 年 10 月 5 日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://chronobiology.jp/>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所  
吉村崇研究室内

TEL/FAX : 052-789-4069

Email : [chronobiology.jp@gmail.com](mailto:chronobiology.jp@gmail.com)

(編集局) 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

近畿大学医学部解剖学

重吉康史研究室内

TEL : 072-368-1031

Email : [shigey@med.kindai.ac.jp](mailto:shigey@med.kindai.ac.jp)

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部